



SHOUN

Shimane
University Library
Bulletin

特1集

デジタル・ アーカイブの誕生

p.2

図書館員の
お仕事

p.16

〈ブック★コンパス〉
誕生秘話

p.8

しまだい資料探訪
「熊谷家文書」の
石見銀山領宗門改帳と人口研究

イベント

告知板

p.18

『アメリカの
ラフカディオ』

Event&News

p.19

特2集

地域図書館ネット ワークが目指すもの

p.10

自著紹介

p.14

鈴木 貢 訳 『ハッカーのたのしみ…本物のプログラマはいかにして問題を解くか』
木下芳一 著 『つらい「胸焼け」スッキリ…胃食道逆流症といわれたら』

本学教員著作の寄贈

p.14

書評

p.15

須藤元氣 著 『幸福論』

ヴィクトル・マリ・ユゴー 著 『レ・ミゼラブル』

白上謙一 著 『現代の青春におくる挑発的読書論』
『ほんの話…青春に贈る挑発的読書論』

2008
VOL. 9
OCTOBER



システム概要

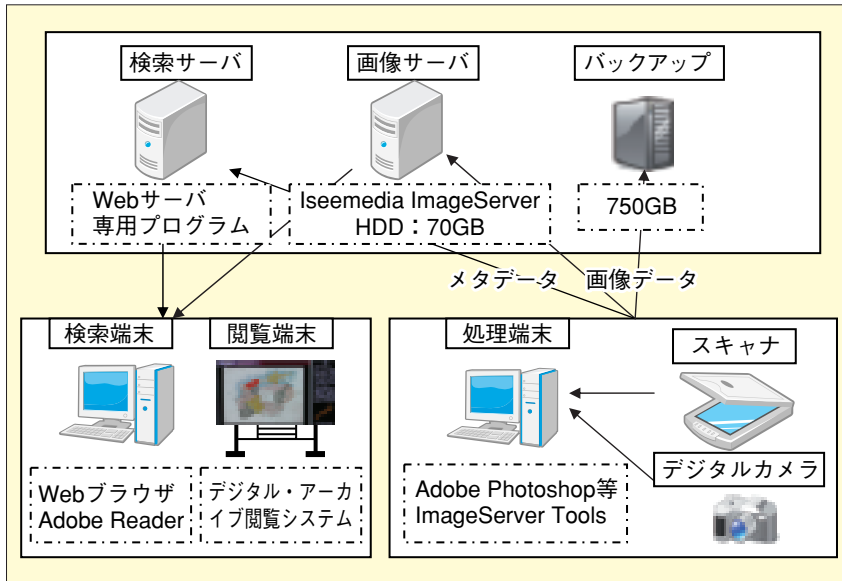


図2 デジタル・アーカイブシステムの構成

デジタル・アーカイブシステムは、資料のメタデータを提供する検索サーバ、デジタル画像を提供する画像サーバ、オリジナル電子化データのバックアップを管理するストレージにより構成されます(図2)。

デジタルカメラやスキャナにより電子化したデータは、ネットワークを通じて提供しやすい形式に加工、登録をしたものを利用することができます。絵図等画像サイズの大きな資料は、Iseemedia ImageServerにより f p x形式で提供し、古典籍、古文書等の冊子資料は、P D F形式で提供しています。



デジタル・アーカイブにおける権利処理

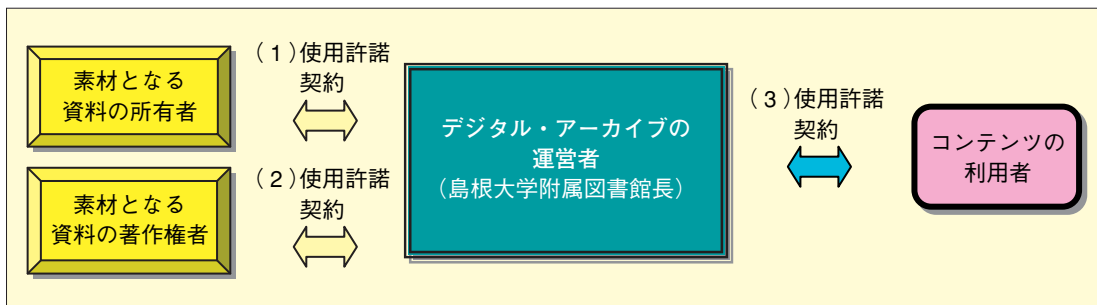


図3 デジタル・アーカイブにおける権利処理

附属図書館のデジタル・アーカイブは、本学所蔵資料だけでなく、地域の図書館、博物館等の機関や個人が所蔵する資料をもデジタル化してアーカイブし、調査研究や教育利用を行うものです。このため、デジタル画像の素材となる資料を所蔵する所有者や、素材に著作権がある場合にはその著作権者との間で、デジタル・アーカイブにコンテンツを掲載し、それを利用して行く上での権利処理を行う必要があります。さらに、デジタル・アーカイブに搭載されたコンテンツを利用して、第三者が復刻出版したり商業的な利用をしたりするケースでは、その利用者との間で利用上の契約を交わしておく必要があります(図3)。

・所有者との覚書
本学では、現在までのところ、著作権のない古い文書や古典籍、絵図などを中心にデジタル化し、アーカイブに搭載してきました。資料を所蔵する所有者との間では、デジタル

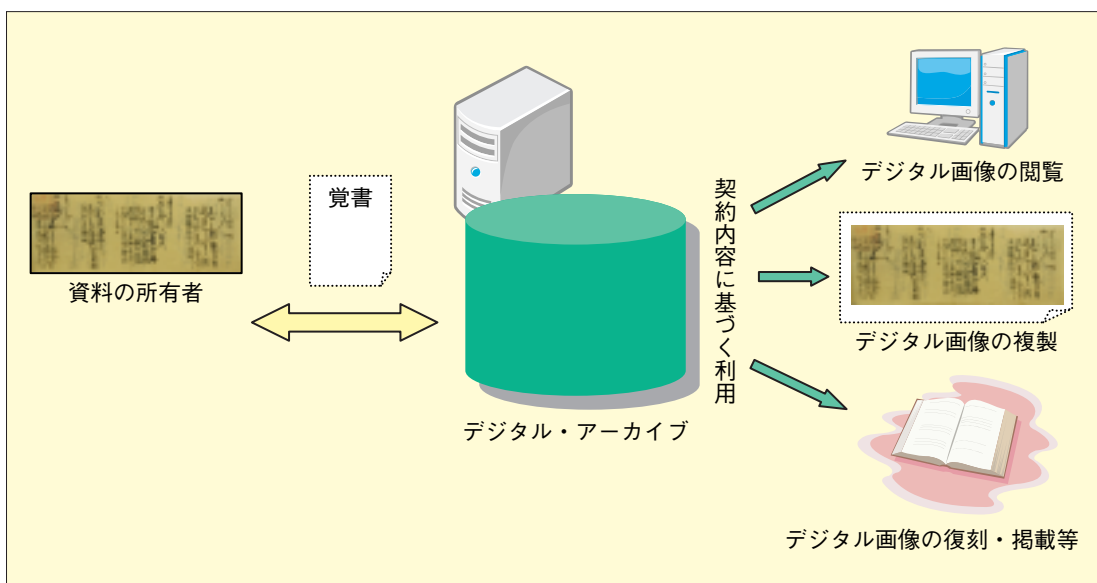


図4 資料所有者との覚書に従ったコンテンツの利用

画像化とその利用について、(1) デジタル画像化の権利、(2) デジタル画像の二次的利用(出版物等への掲載、複製の展示等)、(3) デジタル画像の公開範囲(学外、学内、認証等)、(4) デジタル画像の複製方法、(5) クレジットの表示義務、等を内容とする覚書を取り交わし、覚書の内容に従った利用をしています(図4)。

デジタル・ アーカイブ の誕生

デジタル・アーカイブの 機能と特徴

● 機能

★調査 研究・教育支援 デジタル画像化した資料
を利用した調査や学術研究を支援します。資料現物を参照しなくても、アーカイブに搭載されたデジタル画像を使って調査・研究を行うことができます。このため、複数の研究者が同時に同じ資料を使って共同で調査・研究を進めることも可能となります。

★利用促進
メタデータ（検索の手がかりとなる情報）を付与されたデジタル画像データをネット上で利用できるため、資料現物を利用する場合と比較して、調査、研究、教育における貴重資料の利用環境（時間、コスト、比較検証等）が大幅に改善できます。

★保存対策 貴重な文化遺産であり、学術研究の素材である資料のデジタル画像を、研究や教育のために代替利用することで、資料現物の劣化や損傷を回避するこ

とができます。

公開ステータス別利用

に応じて、公開ステータス(学外公開・学内公開・館内利用・認証利用・非公開)を付与できるため、一般公開ができない調査・研究途上の資料についても、学内限定公開やユーザ認証機能により利用者を限定することができ、デジタル・アーカイブ上のコンテンツを調査・研究など多様に活用ができます。

■共同・調査研究支援 調査・研究グループの構成員にユーザIDを付与することにより、学外の共同研究者を含む研究グループが、同時に同じアーカイブ資料を使って効率的に共同調査や共同研究を進めることができます。

■公開ステータスの変更 調査・研究プロセスに対応して、公開ステータスを制御できるため、調査終了、研究成果公開後、学外への一般公開も容易に可能となります。

■**地域資料アーカイブ** 地域の図書館、資料館等の機関や個人が所蔵する資料をデジタル化してアーカイブすることで、貴重な学術資料の発掘と調査、研究や教育利用を促進させ、原資料画像や研究成果の公開を行うことで、地域の文化遺産を広く共有することができます。



附属図書館では、附属図書館研究開発室が中心となって、デジタル・アーカイブの構築を進めてきました。このデジタル・アーカイブは、学内外の歴史的・学術的な貴重資料や地域資料などをデジタル画像として収集、蓄積・保存し、大学や地域社会における調査、研究、教育活動のために提供することを目的として構築されました。このほど、システム構築を完了し、デジタル・アーカイブに搭載されたコンテンツを利用した調査・研究や教育利用ができるようになります。去る九月三十日に、学長を始め学内関係者への披露が行われました。この特集では、本学のデジタル・アーカイブについて、機能と特徴、収録されている主なコンテンツについてご紹介します。

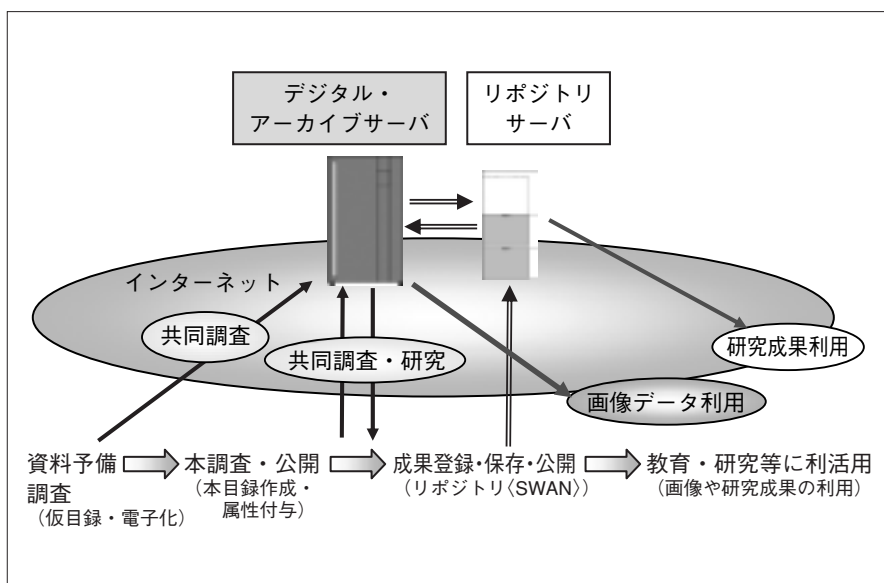


図1 デジタル・アーカイブの利用イメージ

要方』（上記三点は写本）、加善の手術記録である『奇患並大患図』などの貴重な史料が数多く含まれています。

○堀文庫（解説：法文学部教授 田中則雄）

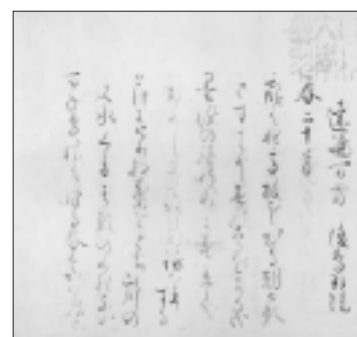


一九九四年に津和野町の堀幸清氏から本学へ寄贈された江戸小説のコレクションです。この書物群は、津和野で江戸後期から明治にかけて営業していた貸本屋の旧蔵書であり、〈読本（よみほん）〉、〈実録〉と呼ばれる江戸の本格的な小説を中心に、一、八八冊を有するものです。この頃の

貸本屋は現在の図書館の役割を担っていました。当文庫の書物には、貸本屋の蔵書印、読者による落書きや手垢などが数多く残っており、そこに当時の町の人々の読書生活の実態をうかがうことができ、この点に大きな価値があります。また特に読本に関しては初刷本（初刷本は概して丁寧に作られ刷りも良い）が多く、日本文学の原本を使った演習・講読の授業、研究のための底本として活用しています。

○歌書（桑原文庫）（解説：法文学部教授 蘆田耕二）

桑原羊次郎（一八六四—一九五五）旧蔵書を島根大学が昭和三四年に購入した桑原文庫約三、〇〇〇冊のなかに含まれる歌書で、『結題百首』、『禁裏御着到和歌』、『後鳥羽院百首』、『遠嶋百首』など約一〇〇冊から構成され、後鳥羽院関係のものが多いのが特徴です。この中には享保九年（一七二四）、松平五代藩主の松平宣維に伏見宮家の岩姫が京都から輿入れする時に嫁入道具として持参したものが含まれているため、「嫁入り本」とも称されています。歌書は『源氏物語』とともに当時における姫君教育の必須の書でした。これらの歌書は、良質



な鳥の子紙を使い、表紙の見返しは銀地に金砂子をちりばめた豪華なもので、形状はほぼ正方形の枳形本で、中世までの歌集・物語に多く見られる列帖装で装丁されています。

○自然地理・教材関係

（資料提供：教育学部教授 林 正久）



授業や公開講座等における高精細画像データやデジタル画像教材の事例として、デジタル・アーカイブの有効性の検証を行っています。データ容量や学内外におけるネット負荷、認証機能や保存、画像データのライセンス対応などが課題です。

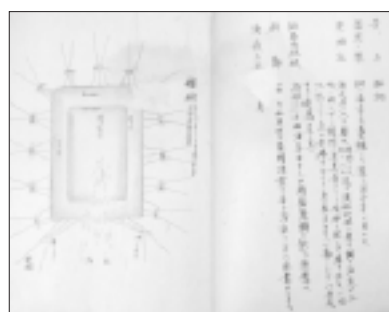
タ・教材画像コンテンツ、航空写真等

○自然地理画像デー

○明治初年島根県の農具図解および漁具図解

（解説：法文学部山陰研究センター教授 廣嶋清志）

国内の先進技術の交流・普及を目指した明治政府は明治十年（一八七七）、内国勸業博覧会を開催しました。その第二回（明治十四年一八八一）に島根県庁からは、県内（現在の鳥取県を含む）の豊富な農具および漁具一八五品の形状、利用方法を詳細に記録した農具図解および漁具図解が出品され、後者はのちに受賞に輝きました。二つの出品物は現在所在不明ですが、後者の下書きが東京の古書店に今年三月に売りに出され、現在購入交渉中です。前者の写しはすでに島根大学附属図書館の



漁村社会・言語などの研究に利用できるようになります。

・地域の貴重資料

○出雲市立大社図書館所蔵の歌書（解説：法文学部教授 蘆田耕二）

『八雲琴譜（やくもことのおふみ）』は、中山琴主が出雲大社に参詣し、神託を得て創案した『八雲琴』と称する二弦琴の詞章集です。編者は琴主。安政六年（一一五八）に初版が刊行されています。『八雲琴二百吟』という出雲歌人の詠歌が見られるのも有益です。

『文久二年八百首』は、文久二年（一八六二）に紀伊の西田惟恒が各地の歌人詠八百首を歌題ごとに分類して編集したもので、出雲歌人が数多く見られ、現存は数本しか知られず貴重な資料です。



現況と今後の課題

・現況

デジタル・アーカイブに収録されているコンテンツの現況を、資料グループ別及び公開範囲別にまとめたものが表1、表2です。表1の寄託資料とあるのは、学外機関や個人が所蔵する資料をデジタル化したものです。これまでのところ、寄託資料、本学所蔵資料合わせて、約一、一〇〇冊、約五一、〇〇〇コマのコンテンツを収録

・課題

デジタル・アーカイブの利用価値を高め、調査・研究・教育等に十分に活用するためには、収録コンテンツの整備・充実を図るとともに、今後、以下の諸課題を順次、解決する必要があります。

■配信コンテンツの容量 学外研究者との共同研究も視野にいれて収録しているPDFデータは、一ファイル一〇〇MB前後になるように調整してあります。この容量は学内の高速LAN上で有効ですが、学外からの利用ではストレスを感じさせることになるため、ページ単位での分割送信などの改善が必要です。

■利用認証 ユーザ認証では、図書館利用者IDと共用していますが、利用者の安全性と利便性を両立できる統合認証システムの導入が必要です。

■利用条件表示 寄託資料では、提供者により利用条件が資料ごとに個別に指定されるケースもあり、利用条件の表示方法の整備とこれらに柔軟に対応できるシステム改良が必要です。

■提供形態と種別 現在、提供できる電子画像データは、冊子等の紙媒体からJpeg形式を通して変換したもので、資料種別により適切なファイル形式での提供も検討課題です。収録コンテンツの増加とともに、多様なグループ化や利用区分設定などへ対応する必要があります。

■資料電子化経費の確保 本学が所蔵する貴重資料や地域資料を計画的に電子化し、活用できるように提供することは、本学が地域の学術情報拠点として社会に貢献するための重要なインフラ整備事業でもあります。このため、安定的、継続的な予算措置や設備の整備が必要となります。



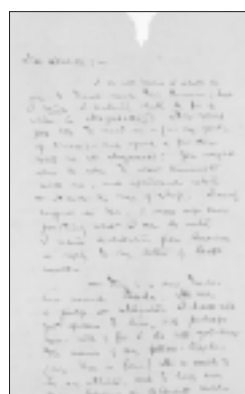
特徴あるコンテンツ

・本学所蔵資料

○ラフカディオ・ハーン関係資料

(解説：法文学部教授 長岡真吾)

ラフカディオ・ハーンの自筆書簡を実画像・翻刻・翻訳の三種の形式で閲覧することができます。また、ハーンが新聞記者時代に寄稿していた一八七〇―一八〇年代の米国新聞やハーン関係古書についても、研究資料としてデジタル化を進めています。これらの資料はハーン研究のみならず、十九世紀アメリカ研究全般において利用価値の高いアーカイブです。



○大森文庫

(解説：島根大学理事、附属病院院長 小林祥泰)



附属図書館医学分館の大森文庫は、華岡青洲の医学塾である大坂の「合水堂」に出掛けて医学修業を行った出雲国母里藩の大森泰輔(不明堂三楽)や婿養子である大森加善(三益)がそこで治療した乳岩手術の記録の詳細なスケッチなど多くの史料が含まれています。自分では著作をすることの

表2 収録コンテンツ数・公開範囲別
(2008.10.8現在)

No	公開範囲	冊数	コマ数
1	学外	97	4,833
2	学内	496	22,369
3	館内	4	152
4	ユーザ	548	23,779
5	非公開	7	120

しています。表2の公開範囲別に収録コンテンツを見ると、現在は学外公開されているコンテンツは、コマ数で一〇％強ですが、今後、資料の調査・研究が進むにつれて、学外公開されるコンテンツは増加が見込まれます。

殆どなかった華岡青洲の事蹟を読み解くうえで貴重な史料です。天保から慶応に至る江戸時代後期の出雲国の医療事情、文化シーンを知ることのできる一大コレクションであり、泰輔の日記『南遊雑記』、『累年雑記』、『他国雑記』、華岡家秘書の『乳岩辨症』、『瘍科瑣言』、『青洲撮

年（一六七五）に綱隆が没して養法院と名乗り、以来、松江の春日村に隠居し余生を過ごす。四代藩主となったわが子吉透が、宝永二年（一七〇五）にわずか一年余の在位で急死した後、宝永四年（一七〇七）に七七歳で没した。

（参考）『島根県大百科事典』昭和五七・七 山陰中央新報社



島根県立図書館蔵
『養法院実筆和歌集』末尾

関連資料に、島根県立図書館蔵『養法院実筆和歌集』（写本一軸）がある。『山下水』の書写から二年後の元禄十三年（一七〇〇）七月下旬、七〇歳を迎えた養法院が書写したとの奥書を有す。

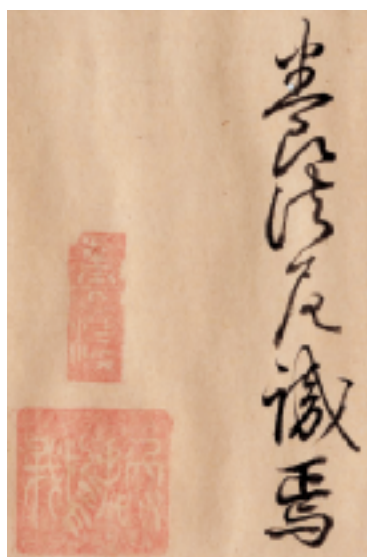
元禄庚辰／文月下旬／養法七十歳／

（朱印A）（朱印B）

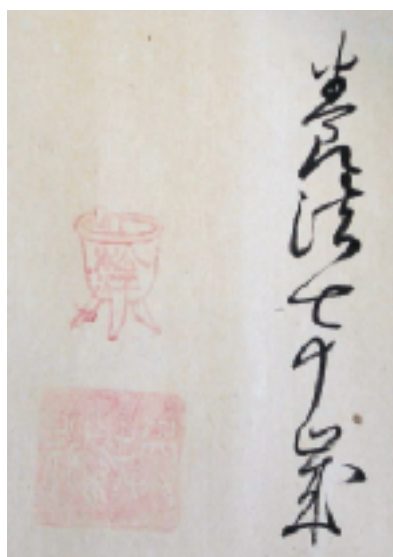
但し外題・内題ともになく、書名は所蔵者が整理のために付したものの。一月から十二月まで、季節を追って十二首の和歌が配され、詞書は折々の生活に即したものとされるが、和歌は養法院の自詠ではなく、すべて先行の歌集に既出のものである。奥書の後に存する朱印は、朱印Aが「松江」、朱印Bが「換鵝」と判読できる。

この朱印Bが稽古有文館蔵本『山下水』の朱印B「換鵝」と一致している。さらにこの資料の軸装の体裁や料紙が稽古有文館蔵本に酷似する上、特徴的な字体を共通

して使用する点などからみて、二本は同筆と考えられる。したがって、この両者はともにほぼ時期を同じくして養法院が書写した真筆資料と考えられる。



稽古有文館蔵『山下水』



県立図書館蔵『養法院実筆和歌集』

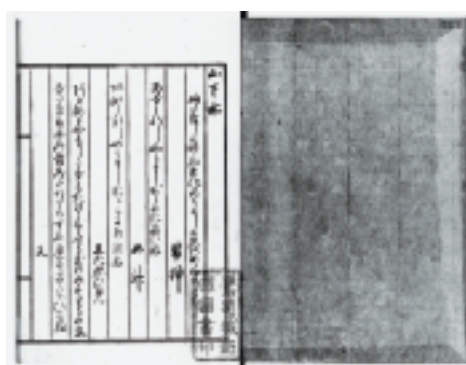
一方、宮内庁書陵部蔵『山下水』（写本一冊、鷹四八七）には、稽古有文館蔵本にみられる養法院の跋文が存するものの、末尾の「養法尼識焉」の部分、および二種の朱印はみられず、次のような朱書による書写奥書がある。

従保実朝臣一覽

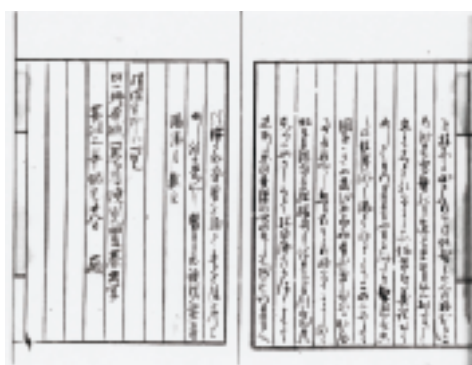
此一冊本紙一卷為便覽豊泰書写

安政二年弥生十八日（花押）

これによって書陵部蔵本は、安政二年（一八五五）三月十八日、「保実」よりもたらされたとは卷子本だっ



宮内庁書陵部蔵『山下水』冒頭



宮内庁書陵部蔵『山下水』末尾

であり、書陵部蔵本は稽古有文館蔵本もしくはその形態を留めた本により転写されたものであると考えられる。このように、書陵部蔵本と比較して稽古有文館蔵本は非常に高い価値を有している。また、これまであまり明らかにされてこなかった、江戸初期の松江藩主周辺の和歌事蹟を探る上でも、貴重な資料であると言える。

（やまざき まさかつ）

た書を、「豊泰」が閲覧の便を図るために書写し、現在の体裁に仕立てたものであることが判明する。書写者の「豊泰」は、安政期の鷹司政通・輔熙父子による書写蒐集活動に加わった「源豊泰」で、政通の和歌の門人である（中村一紀氏「鷹司家文庫の書誌的研究」『書陵部紀要』四四 平成五・三）。

つまりこれまで存在が知られていなかった稽古有文館蔵本こそが、書写者である綱隆側室養法院の真筆資料

特集

1

関連記事

デジタル・アーカイブのコンテンツ

河本家 稽古有文館蔵

『山下水』

山崎 真克（松江工業高等専門学校准教授）

事、かつはおそれかつはやさしくて硯の海のかはくまでよしあし原の末の世のそしりをわかまへす、つたなき筆を染、是を後序となし侍る者也」

◎書写年次

元禄十一年（一六九八）十一月（養法院六八歳）。

「時に元禄戌寅年陽復の月穀旦／養法尼識焉／

（朱印A）（朱印B）」

◎朱印

朱印Aは「養法」、朱印Bは「換鵝」と判読できる（朱印Bは能書家といわれた養法院の、書聖・王羲之の故事をふまえた落款印か）。

全体的には前半・後半の二部構成となっている。前半冒頭には、跋文に「神歌に始て」とあるごとく『日本書紀』にみえる伊弉諾尊・伊弉冉尊の歌が置かれる。これ以降はすべて『古今和歌集』にみえる歌で、仮名序の排列に基づき和歌の始めや六義を示す歌、やはり跋文にいう「二聖六哥仙」など代表的歌人の歌で構成される。続く後半は巻頭・巻末歌を配して『古今和歌集』全体を視野に入れつつ、解釈上留意すべき歌群で構成している。

なお、『山下水』という書名は、『古今和歌集』仮名序の「すべて千うたはたまき、名づけてこきむわかしふといふ、かくこのたびあつめえらばれて、山した水のたえず、はまのまさごのかずおほくつもりぬれば、いまはあすかがはのせになるうらみもきこえずさざれいしのは」となるようこびのみぞあるべき」の部分由来とする。

松平綱隆は、寛永八年（一六三一）、松江藩初代藩主直政の嫡男として江戸で生まれる。寛文六年（一六六六）父の死去により家督を継ぎ、松江藩二代藩主となる。延宝三年（一六七五）急病のため松江にて没（四五歳）、宝山院と号された。

養法院は、綱隆と同年の寛永八年（一六三一）生まれ。明暦三年（一六五七）綱隆の側室となり「御国御前」と呼ばれた。父は直政に仕えた祐筆平賀半助で、その父に習った筆跡は流麗で能書家として知られている。延宝三

鳥取県東伯郡琴浦町鏡津にある河本家稽古有文館において『山下水』という写本一軸が発見された。これは出雲松江藩第二代藩主松平綱隆が『古今和歌集』を中心に四十七首の和歌を撰んで構成した私撰集であり、『和歌大辞典』（昭和六十一・三 明治書院）に「書院部蔵の孤本（他に所蔵が確認できない唯一の本）」と記されている書と内容のものである（『国書総目録』にも記載あり）。

この宮内庁書院部蔵本、および本書の書写者である綱隆側室養法院の関連資料（島根県立図書館蔵「養法院実筆和歌集」）を検討した結果、これまで存在が知られていなかった稽古有文館蔵本こそが養法院真筆本であり、書院部蔵本は後の転写本だと考えられるため、ここに紹介を行う。

河本家は、初代河本弥兵衛隆任は尼子家重臣、三代長兵衛は堀尾吉晴の孫娘、菊姫を娶ったと伝えられる家である。五代弥三右衛門の時、鏡津に転居。十三代芳蔵が家宅に「稽古有文館」の館号を付けた。鳥取県指定文化財となっている河本家住宅は貞享五年（一六八八）の建築。歴代の当主は大庄屋などを務めることが多く、八〇〇点以上の古典籍や数千点に及ぶ古文書が所蔵保管されている。

稽古有文館蔵本末尾に存する跋文により、『山下水』の成立、撰者松平綱隆および書写者養法院について判明することを示す次のようになる。



稽古有文館蔵『山下水』末尾



稽古有文館蔵『山下水』冒頭

◎『山下水』の撰者・成立年次

二代松江藩主松平綱隆撰。成立年次未詳。

「侍従綱隆君また御親にそひまし／ける比より、しきしまの道をたしみ和哥の浦の玉藻をかきあつめ給ふ、今此一巻は、神歌に始て二聖六哥仙までもらさずしるし給ひ、山下水と名づけて凡上の珍玩となし給ふ」

◎書写のいきさつ

綱隆側室養法院が、人の求めにより綱隆撰の『山下水』を臨書し、後序（跋文）を付したものである。

「人のもとめふせくによしなくおはすなから臨書し侍る

や物資の調達に應じるために大わらわであり、同時に宗門改帳の作成という面倒な作業をするのはなかなか困難であったと想像される。

私 は当初、作成された宗門改帳が様々な事情でこれだけしか残らなかったものと考えてきたが、銀山領の社会的動揺を考えると、実際作られたものがほこれだけしかなかった、また以後の宗門改帳も慶応年間長州民政下で作成が指示されるまで銀山領のほとんどの村で中断していたのではないかと考えに傾いている。

一八六四年の宗門改帳は表紙にすべて文久四年三月と書かれているが、実は文久は二月十九日で終わり、三月には元治に元号が変わっているの、これらの宗門改帳は二月十九日以前に作られ代官所に届いていたのかもしれないし、少なくとも書き換える暇がなかったのだろう。この宗門改帳と一緒に熊谷家文書に五人組帳が存在し、これらでは一八六四年が皆無で、一八六三年のものが少なく、むしろ一八六五、六六年のものが多数を占めている。そこから見ても、とくに一八六五、六六年に宗門改帳を作れなかった、あるいは代官所に提出できなかった村が多かったのではないかと考えられる。一方、島根大学所蔵の坂根家文書の村役人宅に控えとして残されていた宗門改帳では、同じ石見銀山領内の忍原村は一八六四（文久四）年が存在しないが、一八六五、六六年は存在するし、別府村は一八六〇―七〇年の間、途切れておらず、それはそれで驚異的である。ともあれ、この宗門改帳の残り具合そのものが、銀山領の動揺の程度を反映していると解釈することにより、さらに興味ある事実が浮き彫りにされてくるように思う。

一 八六六年、長州軍は七月二十四日には温泉津に到着し、長州藩民政を開始し、一八六七（慶応三年）、宗門帳作成についても必ず履行せよと村役人に厳重な注意を促したといわれている（p255）。

こ のように宗門改帳は行政上欠かせない重要なものであり、現実には作成が滞っていたと推定できる。

表1 宗門改帳（熊谷家文書）の郡別村数（付：石見国、石見銀山領の村数）

	総数	安濃	邇摩	邑智	那賀	美濃	鹿足
石見国全域	451	30	46	102	116	96	61
石見銀山領	150	30	46	54	14	1	5
宗門改帳（熊谷家文書）	63	3	20	28	12	0	0
同（天保）	52	3	19	18	12	0	0

石見国全域、石見銀山領はそれぞれ1834（天保5）年『天保郷帳』、村上直1979⁵⁾による。宗門改帳（熊谷家文書）は1863、1864（文久3、4）年。（天保）は天保郷帳に合わせた村数。

宗門改帳の利用

熊 谷家文書の宗門改帳は、上に述べたように、ほとんどが一八六三（文久三）年という一時点に限られていて、歴史的变化を把握することがほぼ不可能という欠点がある。しかし、その地域の規模は人口三万人を超え、村数から見ても、石見国四五一村の四分の一にあたる（表1）。人口規模では、日本に残る最大の諏訪藩宗門改帳（五万八千人）に次ぐものである。その地域的範囲の広さと同時性から、地域的差異がどの程度存在するかを詳しく比較できるといふ利点がある。たとえば、同じ時期に同じ支配（幕府直轄領）で

ありながら、宗門改帳の書き方、たとえば、宗門改帳の題名自体が村によりかなり異なることに改めて驚かされ、江戸時代の行政の性格について考えさせられる。

こ のような一時点の資料は、歴史人口学でも最近使われるようになったもので、一時点の状態から過去の変化を読み取る方法が使われる。たとえば、同じ家で二五歳の女性と三歳のその子供が同居している場合、女性が三年前の二二歳のときに子供を産んだと考える（年齢同居児法）とか、ある村で各人の初婚年齢は分かってなくても年齢別の既婚者の割合を知ることにより、その村の平均初婚年齢を計算するというような方法で出生

や結婚の状況がある程度知ることができる。

こ のような方法で計算したところ、石見銀山領を沿岸、山間、中間の三地域に分けると、女性の結婚、出生において顕著な差が見られる。女性一人あたりの子供数に当たる合計出生率は、沿岸がもっとも高く二・六六、中間がもっとも低く二・〇九、山間がその間で二・二三であった。結婚に関しては平均初婚年齢は沿岸がもっとも遅く二九・五歳、中間がもっとも早く二六・六歳、山間がその間で二九・一歳であった⁶⁾。このような出生率の低い中間地域は、銀山周辺地域であり、銀山の存在によりもっとも都市的であったといえるのかもしれない。この出生率の水準は他の地域や時代に比べて全体的にきわめて低く、その理由はまだ十分よく分かっていないが、この時期のこの地域の社会的動揺を反映したこと、またその影響を銀山周辺の村がもっとも強く受けたということを表しているのかもしれない。

こ のたび附属図書館によって作成される画像デジタル・アーカイブを通じて、より詳細に資料を観察することができることにより、歴史学や歴史人口学のみならず言語学、宗教学など多くの学問による研究が進展することを期待している。

文献

- (1) 島根大学附属図書館 一九八一『石見国銀山領地方文書目録 熊谷家・坂根家・林家』
- (2) 大田町誌編集委員会 一九六一『おおだ』
- (3) 江津市誌編集委員会 一九八二『江津市誌 上巻』
- (4) 温泉津町誌編さん委員会 一九九五『温泉津町誌 中巻』
- (5) 村上直 一九七九「石見国における幕府直轄領と奉行・代官制」『地方史研究協議会編『山陰―地域の歴史の性格』雄山閣出版
- (6) 廣嶋清志 二〇〇二「幕末石見天領の人口機構―単年次宗門改帳による観察」『経済科学論集』二八、一一二八

（ひろしま きよし）

特集1

関連記事

デジタル・アーカイブのコンテンツ

しまだい

【第6回】

資料探訪

「熊谷家文書」の

石見銀山領宗門改帳と人口研究

廣嶋 清志（法文学部山陰研究センター教授）

はじめに

江 戸時代にキリスト教禁圧のため、日本のほぼすべての地域で宗門改帳が作られていたと考えられているが、現在も残っているものはほんのわずかである。幸い、一九六七年関係者の尽力により島根大学附属図書館にもたらされた熊谷家文書の中に石見銀山領の六九村の宗門改帳二三四冊が含まれている。宗門改帳は単に宗教政策にとどまらず一般行政の目的の記載も多く含むため、歴史研究の貴重な資料となっている。すなわち、各村にあるすべての家について持高、牛馬の頭数、構成員の名前、筆頭者との続柄、年齢などが書かれていて（写真1）、いわば国勢調査の調査票のようなものである。人口研究などに使うことができる。

熊 谷家文書の大量の宗門改帳は、収蔵後一四年経つた一九八一年に図書館により目録が刊行され、さらにその後、一九九〇代後半まで十数年の年月を掛けて、速水融慶応大学名誉教授のもとで多くの人の努力によって、翻刻され、コンピュータ入力・電子ファイル化され、分析に利用できるようになった。収蔵後実に三〇年以上が経過した。このたび島根大学附属図書館によって全面的に画像電子ファイル化が開始され、より詳細な分析が

可能になるうとしている。

宗門改帳残存の経緯

と

ところで、掛屋を営んでいた熊谷家にこのように大量の宗門改帳が残存したのはなぜだろうか。その経緯は分からないところが多いが、この資料の利用にあ



写真1 熊谷家宗門改帳の一部 神官も仏教徒（真言宗）として記載されている例。

たっては、そのことに ついて考えておかなければならない。一般的に、現在に残る宗門改帳には二種類あって、ひとつは藩庁や代官所に提出されたもの、もう一つはそ

の下書きとして村役人宅に保存されていたもので、前者は稀であり、後者が圧倒的に多い。石見銀山領宗門改帳はまぎれもなく前者で、そのことは各人、各寺の印鑑が押されていること、張り紙や書き込みが皆無で、使用された形跡がほとんどなく、状態がよいことから明かである。大森代官所に保管されていた宗門改帳は、一八六六（慶応二）年、七月二十日、第二次長州戦争において幕府軍敗走にともない粕淵を経て倉敷へ通走した大森代官鍋田三郎右衛門が銀山代官所用達熊谷三左衛門に引き渡したものと推定される。実際、七月二十二日、代官は粕淵に熊谷三左衛門を呼び昨年の年貢買受米を村高にに応じて貸渡すと指令している。この指令が現実に実施されるのは、七月三十日以後の長州藩民政下になるが、渡された宗門改帳などの資料はこのような行政に役立てることが意図されていたものであろう。

熊

谷家に残された石見銀山領の宗門改帳は一八六三（文久三）年一八八冊と一八六四（文久四）年の四六冊に限られていて、石見銀山領の村数の約三分の一（天保郷帳による村数では一五〇村中五二村）にとどまり、一八六四年のものがとくに少ない。このような残存状態が何を意味するのかわからない。この謎を考

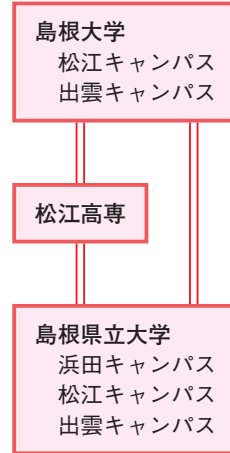
えるには、石見銀山領における当時の社会情勢を考慮する必要がある。

残

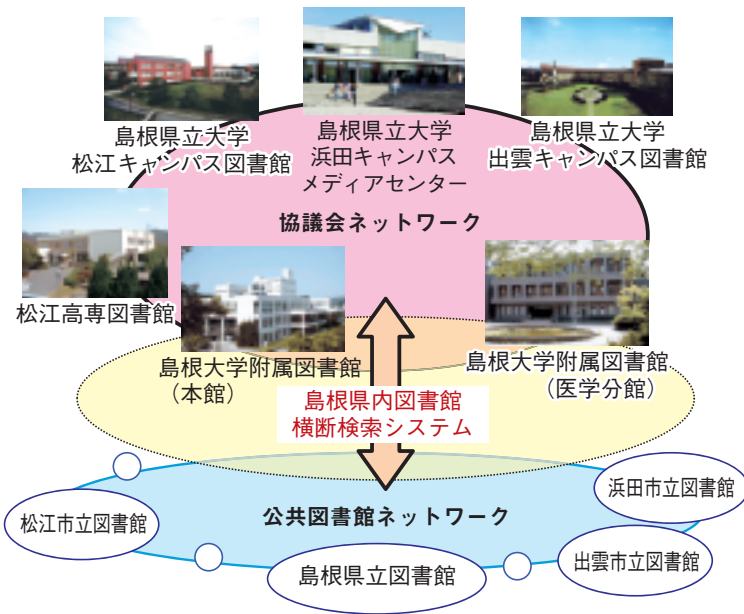
された宗門改帳の多くは一八六三年三月に作られたものだが、この年、八月十八日の政変前後から、幕府と長州藩とが対立し、長州藩領に近接する石見銀山領では緊張が極限に達している。九月には芸州役人が銀山領警備のため出張した。一八六四（文久四）年二月には、各村に厳重な警戒態勢が指示されている（p.二一六―二二〇）。同年十月には第一次長州戦争に伴い村々に防衛体制が敷かれ、十二月には一段落したが、翌一八六五（元治二）年二月には再度長州藩が幕府と対決し、引き続き第二次長州戦争へ進展し、一八六六（慶応二）年、六月に戦闘が始まり、七月下旬には幕府軍が敗退、石見銀山領は長州軍に支配された。この間、百姓一揆も広がったが、長州軍の進出によって鎮圧された。各村の役人たちは、このような警備体制のために命じられた人員

県内高等教育機関とのネットワーク

島根県大学・高等専門学校図書館協議会



島根県内の二大学（五キャンパス）と高等専門学校の六図書館が連携し、二〇〇八年四月に設立されました。



厳しい財政事情の下、効率的、効果的な運営や地域貢献が求められるなど、高等教育機関を取り巻く環境が急激に変わっていく中、各館のリソース（学術情報、施設、人など）を相互に活用しつつ、図書館サービス向上と地域貢献を果たして行こうとするものです。学術情報の相互利用、情報発信と地域貢献、研修と調査研究の三つを事業の柱としています。

学術情報の相互利用

六つの会員館の利用者は、会員館を直接訪れて資料を閲覧したり貸出を受けることができます。また、郵送などの配送便により貸し出された図書を、利用者の所属する図書館のカウンターで受け取ることもできます。もちろん、利用者が郵送料を負担する必要はありません。松江地区については、宅配便を利用した週二便の定期便も開始しました。

共同研修会

協議会発足後間もない七月二日、設立記念講演会として、ニュージーランドのワイカト・インスティテュート



ト・オブ・テクノロジー（Wintec）のサラ・ジェイン・サラバニ館長の講演会を開催しました。この講演会は、同校と国際学術交流協定を締結している松江高専が、同館長を招聘して実現したものです。

「ニュージーランドにおける図書館の学術的サービス」と題して、

小さなネットワークから大きな効果

島根県立大学短期大学部松江キャンパス図書館
任期付司書 野津久美子

平成20年4月25日、島根県大学・高等専門学校図書館協議会が設立されました。これにより、東西に長い島根県の大学・高専図書館間の相互利用が今まで以上に便利になりました。本キャンパスは同じ市内に島根大学と松江高専があるとはいえ、忙しい学生・教職員にとって直接来館することはなかなか難しい問題でした。本キャンパスは学科によって島根大学と共通する部分があり、図書の取寄せ依頼は以前から要望がありましたが、利用する学生にとっては送料の負担がありました。

協議会の設立と共に松江地区内の物流システムが構築されたことで送料の利用者負担がなくなったことは、大きな変化となりました。送料を各大学が負担するシステムは、全国的にみても非常に珍しい取り組みだそうです。今では学生の方から「島根大学にあるこの本が借りたいのですが…」と申し出があるほど、本キャンパスでは定着してきました。

協議会のネットワークは相互利用だけでなく、講演会や講習会の開催等も既に実施しており、県内の図書館関係者が多数参加しました。今までは県外の大学で開催されることが多く参加が難しかった講習会等も、参加の機会が増え、司書の専門性向上の一役を担っています。

この協議会は6つの図書館で構成される小さな組織です。しかし小さい組織だからこそ可能なサービスが多々あります。今後も相互利用で資料の有効活用をすると共に、講演会の開催や情報発信など多方面からみなさんの学習・研究支援ができるよう、更なる協議会ネットワークの発展を願っています。

特集

2

地域図書館ネットワークが 目指すもの

大学図書館など、高等教育機関の図書館と公共図書館が相互に連携し、より良いサービスを創出するため、図書館資料の相互利用の基盤となる物流システムを活用した、より緊密な図書館ネットワークを展開しつつあります。本特集では、島根大学附属図書館が進める3つの地域図書館ネットワークについてご紹介します。

連携がもたらすものとは

地域の大学図書館や公共図書館が、館種を越えて連携を進めています。各館が持つ特徴を活かし、従来の単独館ではなし得なかったより良いサービスや、より発展的な事業が可能となります。キーワードは、**相互利用**、**情報発信**と**地域貢献**、**職員の人的交流**です。

相互利用

各館のコアとなるリソース（図書館コレクション）を活かしながら、周辺領域については他館のリソースを利用することができます。物流システムを活用すれば、他館に出向かなくても本を借りることができます。横断検索システムは、相互利用の基盤となるものです。

情報発信と地域貢献

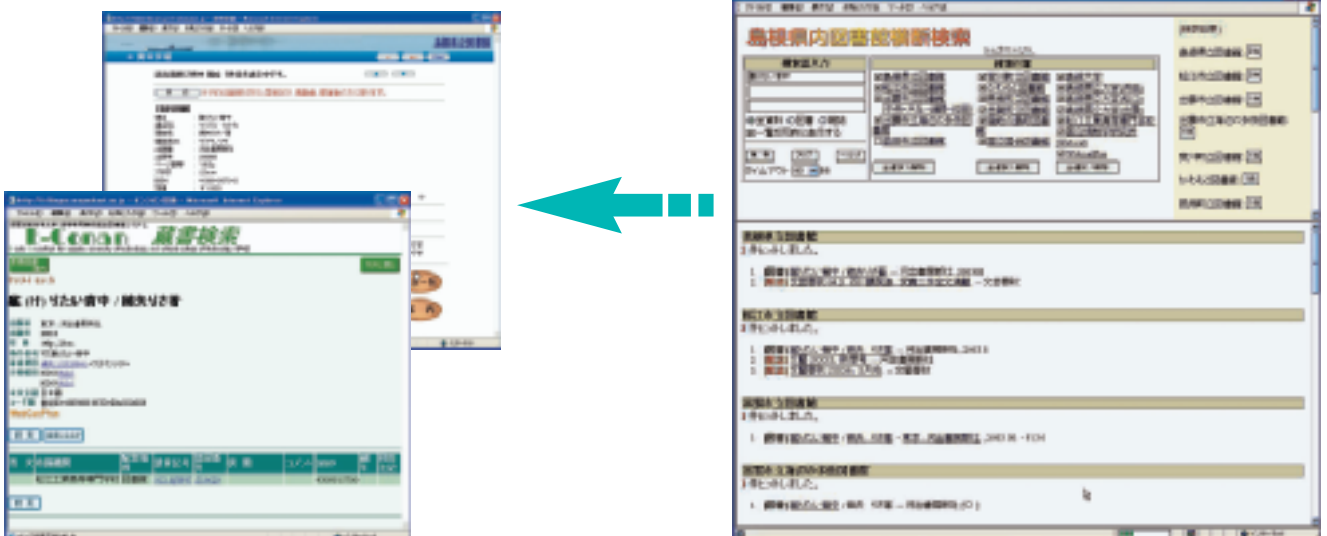
各館が所蔵する貴重資料の企画展示会や関連する講演会を共同開催することにより、それぞれの館の強みのあるリソース（図書館コレクションなど）を活かしながら、より地域に根ざした地域貢献事業が可能となります。

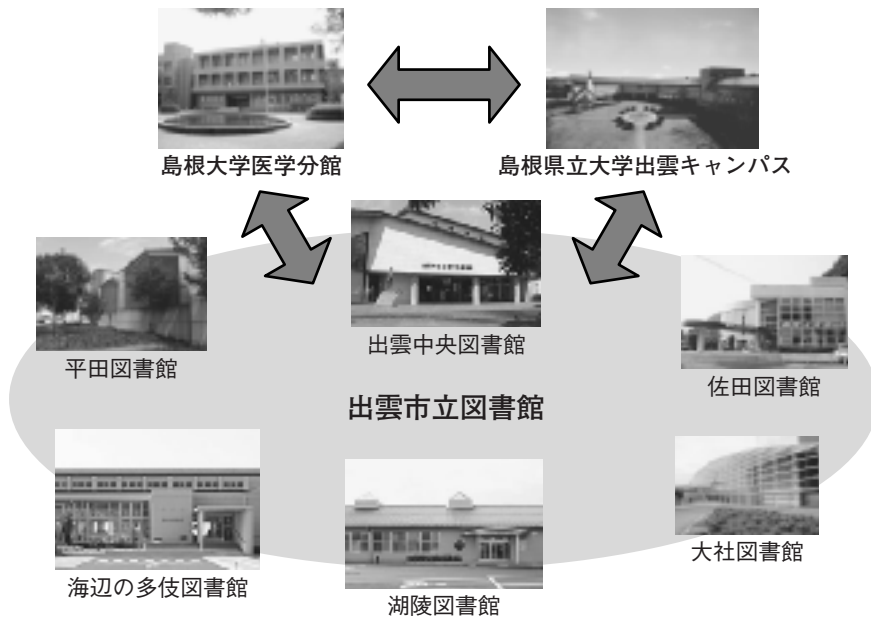
職員の人的交流

相互利用や、企画展示等の共同開催により、各館の職員の交流が進み、そのことがより高いサービスを生む基盤となっています。職員研修の共同開催も行います。

横断検索システム

図書館が所蔵する資料を相互に活用するためのツールとして、「島根県内図書館横断検索システム」を公開しています。県内の公共図書館と、大学や高等専門学校などの高等教育機関の図書館一八館の蔵書を一度に検索でき、該当する図書を所蔵する図書館の、詳細な所蔵情報を確認することができます。





応じ、医学分館を通じて貸出を行います。市民の方に必要な資料を提供するサービスです。一方で、本学の利用者が、出雲市立図書館の図書を、本学図書館カウンターで借り受けることもできます。本館（松江）と医学分館の間は学内便を使って配送し、出雲中央図書館から各図書館に配送するという方法をとっています。

■合同企画展示・講演会

相互協力協定の締結当日、出雲中央図書館において「顔で笑って、心も元気で あなたの心にタッチ」と題する藤井輝明鳥取大学大学院医学系研究科教授の公開講

図書館の相互協力協定について

出雲市教育委員会図書政策課 吾郷 誠

公共図書館は、様々な分野の資料を収集し、広く一般の方々に利用いただくための施設です。出雲市には全部で6館の公共図書館があり、平成19年度には貸出数は100万点を突破し、多くの市民の皆様にご利用いただいています。

さて、平成19年11月より、出雲市立図書館と島根大学附属図書館医学分館および島根県立大学短期大学部出雲キャンパス図書館は、それぞれの所蔵する豊富な資料の有効活用とサービスの向上を目的として、図書館の相互協力に係る協定を締結しました。現在までの間、公開講演会や展示会、図書館資料の相互貸借などの取り組みを実施しています。

特に、本年8月23日・24日に島根大学附属図書館医学分館と共同開催した「出雲にもたらされた華岡流医術の世界」講演会及び展示会には、多くの皆様にご来場いただき、「大森文庫」という貴重な資料を市民の皆様にご紹介する機会を得ました。また、相互協力協定事業を開催するなかで、各図書館の職員の交流により、蔵書の特徴を知り円滑な協力体制を築くなど、今まで以上に幅広い図書館サービスが提供できるようになってきています。

資料や情報は、分かりやすいかたちになってはじめて、利用者の手元にとどきます。今後も「図書館相互協力協定」が、各図書館の豊富な資料の提供や展示会・講演会などの情報発信の大きな助けとなるものと考えています。



演会を開催しました。この講演会は、出雲中央図書館の創立六〇周年記念事業の一環として医学分館が開催したものです。多くの市民の皆様が聴講にいられました。第二弾として、本年八月二十三日に同じ出雲中央図書館において『出雲にもたらされた華岡流医術の世界―島根大学附属図書館医学分館「大森文庫」に学ぶ』とのタイトルで、公開講演会と展示会を開催しました。

大森文庫は、江戸時代後期、紀州の華岡青洲のもとに医学修業に赴いた母里藩（現在の島根県安来市）の医師大森泰輔、加善親子が残した多くの史料を集めた一大コレクションです。その研究成果を学外に発信するための講演会であり、小林祥泰医学部附属病院長、郷土史家ト部忠治氏及び斐川町立斐川西中学校長梶谷光弘氏の講演に多くの聴衆が耳を傾けました。

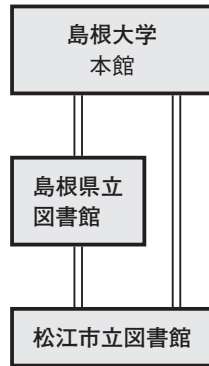
講演会に合わせて、講演会当日と翌八月二十四日に開催した展示会では、パネルによる史料紹介とともに、大森泰輔筆の「華岡青洲肖像画」、華岡青洲筆「身正而天下帰」などの掛軸や日記写本類の実物展示を行いました。医学分館では、キャンパス内において、平成十七年から毎年大森文庫の講演会、展示会を開催し、多くの市民の皆さんに聴講、観覧いただきましたが、今回出雲市内では初の学外における講演会・展示会となりました。

ニュージージラランドにおける図書館行政や図書館間の連携組織等について講演されました。三館の関係者のほかに、島根県立図書館など公共図書館関係者を含めた四〇名が出席し、有意義な職員研修の機会となりました。

公共図書館とのネットワーク

公共図書館との連携では、二〇〇七年二月二十三日に松江地区、二〇〇七年十一月三日に出雲地区で協定を締結しました。これらの協定により、公共図書館との間で物流システムを利用した図書館資料の相互利用が開始されたほか、所蔵資料の共同展示企画や講演会の共同開催など、連携事業が着々と進んでいます。

松江地区の図書館ネットワーク



相互貸借

島根県立図書館との協定締結と同時に、県立図書館の物流システムを使った週一便の相互貸借を開始しました。これにより本学の利用者は、県立図書館の蔵書本館のカウンターで借りることができるようになります。また、授業やサークル活動に忙しい学生にとって、また、研究・教育活動に多忙を極める教員にとって、キャンパス内で公共図書館の図書を借りることができるのは、大きなメリットとなっています。

県立図書館では、県内の市町村立図書館や大学・高専図書館を結ぶ物流システムの試行を始めようとしています。



す。従来、県立図書館などに限定されていた相互貸借の相手館が、県内全域の公共図書館に拡大されることとなります。本学もこの物流システムに参加する予定ですので、図書館カウンターで、県内全域の公共図書館の図書を借りることができるようになります。（二〇〇八年十一月からの予定）

■合同企画展示・講演会

二〇〇八年三月に、初の三館合同企画展示・講演会を、島根県立図書館で開催しました。

近世の出雲は、幾多の名

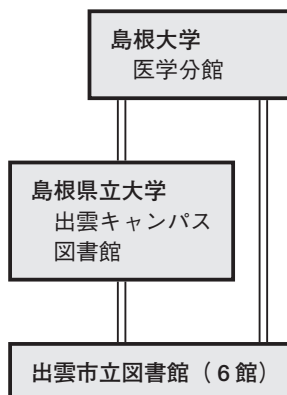


医を輩出した医療先進地とも言える地域でした。この企画は、本学医学分館が所蔵する古医学書のコレクションである大森文庫（安来市の大森家旧蔵資料）を中心に、各館が所蔵する関連資料を展示し、近世出雲国における地域医療と医家の文化的な背景を、企画展示と当該分野の研究者による講演によって探ろうとしたものです。

世界に先駆けて、全身麻酔による乳癌手術を成功させた華岡青洲に学んだ近世後期の医師、大森三楽（母里藩、現在の安来市）の医師としての側面に加え、これまであまり注目されてこなかった文化人としての側面にもスポットを当てて、華岡流医術と大森三楽に関する包括的な研究成果を公開するものとなりました。展示会の初日に行われた講演会には、一六〇名にのぼる聴講者が訪れ、大変好評でした。

なお、この企画は、共催機関である島根大学プロジェクト研究推進機構（萌芽的研究部門）の研究成果によるとともに、松江開府四〇〇年祭の協賛事業の一環として開催されたものです。今年は、三館合同企画の第二弾として、「アメリカのラフカディオ」を開催します。（一八ページ参照）

出雲地区の図書館ネットワーク



相互貸借

附属図書館が所蔵する図書を、出雲市立図書館六館（出雲中央図書館、平田図書館、佐田図書館、海辺の多伎図書館、湖陵図書館、大社図書館）の利用者の求めに



須藤元氣著

『幸福論』

ネコ・パブリッシング 二〇〇五

法文学部 社会文化学科

三回生 高橋晴香

本書のタイトルにある「幸福」とは一体何を示しているのか。「幸」はしあわせ、「福」もしあわせなら、「幸福」とはよほどしあわせなことを示しているであろう。では、「しあわせ」とは何なのか。

かつてより、アラン、ヒルティ、ラッセルなどを代表とする様々な人々が考え続けている「幸福」だが、それぞれ共通してこれ即ち幸福と結論付けることはできていない。個々人がそれぞれの欲を満たすが幸福なら、それは即ちエゴであり、自らの欲を断ち世界の全人類のために平和を願うのもまたエゴであるように思えてならない。

人間とはエゴの塊である。いくら否定してもそれが覆ることはないだろう。しかし、人は誰しも欲と自己犠牲を程よくブレンドした揺らぐことのない自分だけの幸福論を持っている。例えば本書で筆者は四国八十八箇所巡りを通して自らと向き合おうとしていた。争いのない世界を願いつつも自らは格闘によって生計を立てている。そのようなジレンマの中、彼が導き出した答えが彼の存在意義、即ち彼なりの幸福なのだ。つまり、自分の欲望を満たしつつ、他人の中に自分の存在意義を残すという絶妙なバランスがとれている状況こそ、誰もが望み続ける幸福そのものなのではないだろうか。それが私の持論、即ち私の幸福論である。

(たかはし はるか)
[本館・閲覧室 291.8/SU14]



ヴィクトル・マリー・ユゴー著

『レ・ミゼラブル』

法文学部 法経学科

三回生 青木茉莉子

『レ・ミゼラブル』は、小さいときに子どもアニメ劇場で見て以来、暗くて重たい話だと思い敬遠し、世界の名作であるにもかかわらず、大学三年になるまで、ちゃんとしたストーリーを知らなかった。

原作は、とてつもなく長い。一冊五〇〇ページ近くあり、それが五巻まで続く。はつきり言って大学生くらいしか読む時間も体力もないだろう。それを私が読もうと思ったのは、ロンドンで『レ・ミゼラブル』のミュージカルを観てからである。ロンドンなので、もちろん英語のミュージカルである。私はその英語についていけなかった。半分眠りかけていた。せっかく海外まで来たのに情けないと思い、日本に帰ったら絶対に読む！と心に決めたのである。

読んでみると、めちゃくちゃ面白い。とにかく、ユゴーはあらゆるテーマをとり上げる。人生とは？ 愛とは？ そして神とは？ ……あちこちに話が飛ぶのがまた面白い。だからあれほど長編なのにもかかわらず人気なのである。『レ・ミゼラブル』では、あらゆる階層や身分の人々が出てくる。その誰もが魅力的で、感情移入してしまう。そして最後には、自分とは何者で、いかに生きるのか？ということを考えさせられる。古典の名作は、やっぱり面白い。

(あおき まりこ)
[本館・書庫 908/SE224ほか]



白上謙一著

『現代の青春におくる 挑発的読書論』

昭和出版 一九七六

『ほんの話』

青春に贈る挑発的読書論

〈現代教養文庫〉 社会思想社 一九八〇

医学部 医学科 生理学講座

准教授 伊藤眞一

ある生物学者のエッセー集である。学生新聞連載当時（一九六〇年代）の世相に危ういものを感じた著者は、「もし諸君が学生として生きている現代が、私たちが学生として生きていた時代（一九三〇年代）と同じであるとすれば、諸君は私達の過ちを身をもって批判する絶好の機会をあたえられていることになる。そして同時に当時の私達の無力さ、いのりをも身をもって理解し再現することができのではなからうか。」と問いかけ、「当時の学生だった私がどのように見、どのように行動してきたか」を自身の青春時代の読書を手掛かりとして掘り出してゆく。

書評の形を借りた著者の精神史であり、読むほどに白上謙一という稀代の読書家の姿が懐かしく浮かび上がって来て、繰り返し読んで飽きることがない。取り上げる本は人文社会系および大衆小説を中心に驚くほど多岐にわたるが、含み針、いかさま賭博などの「愚にもつかぬもの」や「亡びゆく者」への愛惜に満ちた共感が心を打つ。読書案内、小ネタ集としても秀逸である。絶版であるが古書価はさして高くない。一読を薦める。

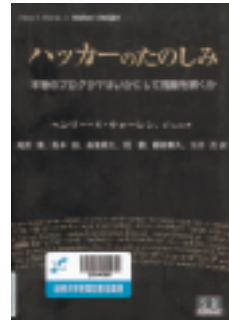
(こいつ しんいち)
[本館・閲覧室 019.1/SH83]

自 著 紹 介

鈴木 貢 訳

『ハッカーのたのしみ…本物のプログラマは
いかにして問題を解くか』

エスアイビー・アクセス
二〇〇四



巻ではハッカー (hacker) という語を、弱点を突いてシステムに侵入したり情報を盗み取るような犯罪者に対して使っているが、これらはクラッカーあるいはアタッカーと呼ばれるべきである。その正しい意味は、計算機（コンピュータ）全般の技術に通じ、与えられた計算機から最大限の性能を引き出そうとする人々のことで、ハッキングとはその行為である。ハッキングといえば、MITのAIラボに伝わるHAKMEM (http://inwap.com/pdp10/hbaker/hakmem/hakmem.html) は、特定の機種（主にMITにあったPDP-10/20）に関連した話題を網羅したハッカーの聖典である。一方でこの書物では、一部HAKMEMと重なるところもあるが、著者Warren, Jr.の興味に沿ったプログラミングに関連する独自の話題が取り上げられ、掘り下げて議論し、特定の機種に依存しない形で技法が具体的プログラムコードの形で示されている。

本書の評として、プログラミングコンテストの参考書向きであるとするものがあるが、決して取り扱われている内容は実務から乖離したものではないと考える。例えば、紹介者のようなコンパイラ最適化の研究者や、計算資源が乏しい組み込み計算機の開発者にとっては、目の前の問題解決へのヒントがたくさん散りばめられている。

最後に、関わった一人としての宣伝をお許し頂きたい。
http://www.hackersdelight.org/には各刷の訂正が掲載されているが、Knuthといった大御所と並んで、日本語版翻

訳スタッフの名前もある。特に第一章「整数定数での除算」の藤波氏の貢献は非常に大きい。このような仕事は職人的翻訳者ではなく、計算機を知り尽くした者にのみ可能であると信じる。

（総合理工学部准教授 鈴木 貢 すずぎ みつぐ）
[本館・閲覧室 007.64W39]

木下芳一 著

『つらい「胸やけ」スッキリ…胃食道逆流症
といわれたら』

保健同人社 二〇〇七



「胸やけ」とは、前胸部が下の方から上の方へと熱くなるような不快な感覚です。このような症状は中年の男性や高齢の女性によくおこり、頻回に症状が出現するために快適な日常生活が送れなくなっている人を胃食道逆流症と呼んでいます。本疾患は、胃の内にある酸を含む胃液が食道内に逆流し食道内に永く停滞するためにおこります。この病気の人は、日本人では全人口の一〇％程度おられると言われ、非常に多く、また最近その有病率が増加している疾患です。これは、日本の衛生環境が良くなったことと食生活が欧米化してきたことにより、日本人の胃酸分泌が増加していることが原因と言われています。

本書は、最近患者数が増加してきた胃食道逆流症の原因、予防法、治療法を一般の人が理解できるようにやさしく解説した読み物です。食べすぎたり、飲みすぎたりした時に胸やけがするような方、よく酸っぱい胃液が口や喉の奥に上がってくる方は、本書を読んでいただく参考となる知識が分かりやすく解説してあります。

（医学部教授 木下芳一 きのした よしかず）
[分館・二階図書 W1250/KIN]

本学教員著作寄贈一覧（平成19年9月～平成20年8月）

蘆田 耕一（法文学部）	出雲国の四歌集
上園 昌武（法文学部）	清輔集新注（新注和歌文学叢書1）
大日方克己（法文学部）	公害湮滅の構造と環境問題
永松 正則（法文学部）	古代国家と年中行事
法文学部山陰研究センター	憲法のレシビ
相良 英輔（教育学部）	出雲国産物帳
高瀬 彰典（教育学部）	たたら製鉄・石見銀山と地域社会：近世近代の中国地方
富澤 芳亜（教育学部）	小泉八雲論考：ラフカディオ・ハーンと日本
福田 哲之（教育学部）	日本の青島占領と山東の社会経済1914-22年
竹田 健二（教育学部）	上博楚簡研究：竹簡が語る古代中国思想、2
横原 茂（教育学部）	国家・共同体・教師の戦略：教師の比較社会史
鈴木 貢（総合理工学部）	ハッカーのたのしみ
西脇 宏（外国語教育センター）	コンピュータアーキテクチャのエッセンス
鈴木 亨（名誉教授）	フロイト全集、9
内藤 正中（名誉教授）	近世前期文学の主題と方法
大谷 浩（医学部）	竹島・独島：史的検証
木下 芳一（医学部）	グレイ解剖学
小林 祥泰（病院長）	つらい「胸やけ」スッキリ：胃食道逆流症といわれたら
大森文庫出版編集委員会	脳卒中最新Q&A92
	華岡流医術の世界：華岡青洲とその門人たちの軌跡

本学教員著作の寄贈

本学の先生方の著作を多数ご寄贈いただきました。寄贈いただきました先生方に御礼申し上げます。今後とも著書を刊行の際は、図書館にご寄贈くださいますようお願いいたします。

トも若者っぽいものになりました。

6. 結果

展示期間五週間。二四タイトルの貸出実績は三五回で、四回がタイトル、三回が四タイトル、二回が七タイトルで、一度も借りられなかったものが七タイトルありました。最近発行された話題作には人気が集中したようです。(貸出期間は二週間)

第2回のテーマは

『人は旅をする』

—マルコ・ポーロから中田ヒデまで—

前期試験の最中にスタートしました。試験も心配だけど、今年の夏休みはどこに行こうかと考えている人も多しはず。でも旅に関する図書(ガイドブック、紀行文など)では月並みです。そこで、「旅行」ということに限定しないで、「なぜ人はそこにとどまらず、まだ見ぬ世界を目指すのか」を問うものを集めてみました。

人は旅をあることで新たな発見をし、世界を変えてきた。

何かを見つけに行く人もあれば、捨てに行く人もいた。

なぜ人は旅に出るのか?

ガイドブックを片手に、お薦めコースを巡りおいしいものを

食べる、それが当たり前の旅になってきていませんか。

こんなガイドブックにも載っていない旅があります。

必要なのは、一歩踏み出す勇氣と好奇心。

旅で得たもの……それはプライスレス。

展示期間が夏休みになるため貸出回数あまり期待できませんが、こんな本があるのだからと目に留め、いつか読んでもらえればいいのです。

第3回のテーマは

『アカデミック・スキルズ』

—読めばトクする論文・レポート作成術—

夏休みも終わり、今度は真面目に勉強モード。卒業論文や授業の課題レポート作成に役立つ資料を集めました。旅に出た後は、腰を据えて論文を書く。大学生らしくていいですね。旅で得た感性も生かせば、きっと良い論文を仕上げられるはず。ほら、もう読んでみたくなかったですよ。

(あずきざわ えつこ)

コンパス……

目指す目的地に辿り着くために、なくてはならないもの。

道に迷ったとき、

方向を指し示してくれるもの。

あなたは、

どこへ向かって歩いていきますか?

道に迷ったら、

ここへ立ち寄ってみてください。

寄り道もまた楽しからずや。

ここがのこみだいの





図書館員のお仕事

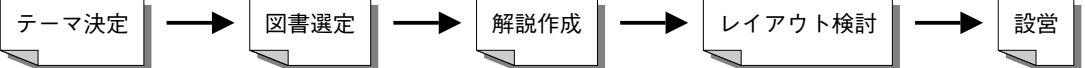
〈ブック★コンパス〉誕生秘話
—胸がときめく「本」との出会い—

資料整備担当 小豆澤悦子

図書館の本は、一年間にどれくらい借りられていると思いますか。平成十九年度は、本館で四六、四三八冊、医学分館では一三、一二九冊でした。悲しいことにこの数字、年々下降の一途です。

図書館一階のカウンター奥に、〈ブック★コンパス〉という図書の展示コーナーができたのをご存知でしょうか。図書館には開架だけで一〇万冊以上の本があり、これは一日一冊読んだとしても三〇〇年かかるほどの冊数です。卒業するまでに出会える本は、そのうちのどれくらいでしょうか。たった数年間で読める本は限られています。学生時代に「この一冊!」と巡り会うため、普段見過ごされている図書を紹介する機会を提供したい。〈ブック★コンパス〉コーナーは、そんな場所になりました。いとの想いから生まれました。

〈ブック★コンパス〉の展示は、二ヶ月程度のサイクルでテーマを変えています。その準備の様子を紹介しましょう。



第1回のテーマは『文学賞を読む』

1. テーマ決定

学生のみなさんが関心を持ってくれそうな図書、たとえば小説です。大学によっては小説類を置かない図書館もありますが、本館では希望図書や話題になったものなどある程度購入しています。第一回のテーマとして「文学賞」に目を付けました。調べてみたら国内だけでもかなりの数の文学賞があり、蔵書にも受賞作品が結構ありました。まずは、胸をワクワク・ドキドキ・うるうるときめかせる一冊との出会いを。

テーマ名は重要です。簡潔で内容をズバっと表すテーマ名? ……『文学賞受賞作を読む』では長すぎるんじゃない?』ということで、『文学賞を読む』に決まりました。

2. 図書選定

図書館職員の中でお気に入りの本、推薦する本を募集しました。その中で何らかの賞を受賞しているものを探したのですが、これにはあまり苦労しませんでした。かえって候補が多すぎ、どれも面白そうなので選定に困ったほどです。

3. 解説作成

「読んでみたい!」と思わせるのが解説文のポイントです。Web上には書評や感想を掲載したサイトがたくさんあり、度々参考にさせてもらいました。わぁー、こんな本が図書館にあったんだと気付かされることもしばしばで、「いつかは、これもこれも読むぞー」と興奮しながらの作成でした。

4. レイアウト検討

いくら商品が良くても、並べ方が悪ければお客さんは素通りです。お金は無いので知恵を出しながら、今あるものを利用した手作りレイアウトとなりました。

〈ブック★コンパス〉の図書であることを区別するためにビニールのブックカバーを掛けることを考えたのですが、市販品は高価でサイズもいろいろ必要です。新刊書に巻かれている帯をヒントに、縦巻きのオリジナル帯をつくり、外れないように本の表紙に留めました。次のテーマと区別するために、毎回色合いを変えています。テーブルに平置きではパツとしません。でもブックスタンドはやっぱり高価。そこで、図書館にたくさんあるブックエンドを利用しました。ブックエンドの上に厚紙で作った解説文を置くと、本が斜めに乗せられることを発見。見せ方としてもいいし、本を手にとると解説文が表れ、借りられてしまうと「貸出中」の文字が残ります。えへへ、工夫するって楽しいですね。

5. 設営

場所はカウンターの近く、通行が多くて目に付きやすい場所で、奥側の本もよく見えるように二段にしました。新規オープンなのでまず目を留めてもらうことが肝心。事務文書のようなポスターとお役所口調はやめ、フォン



●本館

■3館合同企画展示会・講演会開催（2008.3.9-3.14）

島根県立図書館、松江市立図書館、島根大学附属図書館の3館合同企画として、島根県立図書館を会場に、企画展示・講演会「出雲国に伝播した華岡流医術とその時代」を開催しました。4名の講師による講演会は、近世後期の出雲国における医療や医家の文化的な素養が総合的に理解できる深い内容で、約160名の参加がありました。

なお、10月には松江市立中央図書館を会場に、「アメリカのラフカディオ」と題した企画展示会とシンポジウムの開催を予定しています。

■島根県大学・高等専門学校図書館協議会設立（2008.4.25）

島根県内の高等教育機関の図書館が相互に連携し、サービスの向上を図ることを目的として「島根県大学・高等専門学校図書館協議会」が設立され、協定書調印式が行われました。これにより、会員館間で、図書の相互貸借や文献複写の取り寄せができるようになりました。

■新任教員対象の図書館ガイダンス開催（2008.5.14）

新任教員を対象とした図書館ガイダンスを開催しました。9名の参加があり、学術情報基盤整備計画、図書の購入、データベース・電子ジャーナルの概要、検索講習会、学術情報リポジトリなどについて説明を行いました。

■図書館ホームページのリニューアル（2008.6）

メニュー項目の大幅な見直しを行い、よく利用されるメニューをメインに配置しました。また、電子ジャーナルやデータベース検索を「電子リソース」として集約し、概要がよくわかるようにしました。

■「ブック★コンパス」コーナー新設（2008.6.13）

毎回テーマを変えて、図書館の資料を紹介する特集コーナー「ブック★コンパス」をスタートしました。利用者、特に学生に、本との出会いの場を提供します。

第1回（6-7月）のテーマは「文学賞を読む」、第2回（7-9月）のテーマは「人は旅に出る」、第3回（10-11月）のテーマは「アカデミック・スキルズ」です。

■和装本取扱い研修会開催（2008.6.20）

法文学部田中教授の講義として行われたものに、図書館職員も職員研修の一環として参加させていただきました。大社町史編纂室の蒲生倫子氏を講師に、和装本の基本的な管理と保存方法について学びました。

■『島根大学附属図書館年報』創刊（2008.7）

図書館の1年間の活動を記録した『年報—Annual Report 2007』を創刊しました。トピックス、図書館の動向、統計情報など、図書館の活動状況がコンパクトにまとめられています。今後毎年発行していきます。

■講演会「ニュージーランドにおける図書館の学術的サービス」開催（2008.7.2）

島根県大学・高等専門学校図書館協議会設立記念として、ニュージーランドのワイカト・インスティテュート・オブ・テクノロジー（Wintec）の図書館長Sarah-Jane Saravani氏の講演会が開催されました。公共図書館関係者も含めた40名が参加し、活発な質疑応答が行われました。

同氏は、7月4日には医学分館を訪問され、職員との交流を図りました。

■不用雑誌の無料提供会開催（2008.7.9-7.11）

昨年度に続き、2回目を開催しました。保存年限の過ぎたブラウジングの雑誌約800冊のうち、4分の3を提供することができました。

■インターンシップ学生の受入（2008.8.25-8.29）

今年度は1名を受入れ、1週間にわたって各業務を体験してもらいました。最終日には職員との意見交換を行い、図書館にとっても学生の目線での意見や感想を聞く好機となりました。

■ILLシステム地域講習会開催（2008.9.5）

国立情報学研究所のILLシステム講習会を同研究所との共催により、島根大学で開催しました。全国の20大学・高専から24名が参加しました。

■1階事務室の統合（2008.9.11）

離れた場所にあった1階の2つの事務室を統合し、カウンターも1つに集約しました。担当者間の連携をスムーズにし、利用サービスの向上を目指していきます。

イベント告知版



2008年企画ポスター

『平成二〇年度三図書館合同企画展示、シンポジウム』 『アメリカのラフカディオ』 Lafcadio in America

図書館専門員 加本 純夫

島根大学附属図書館は松江市内の三図書館（島根県立図書館、松江市立中央図書館）とそれぞれ相互協力協定による事業を展開しています。この中で資料の相互利用や共同研修等のほか、地域社会と連携した企画展示や講演会の共同開催も行っています。本年度は、アメリカから明治二十三年に来日後、島根県尋常高等中学校及び島根師範学校の英語教師として松江に赴任し、作家として日本文化や習俗などを独自の感性と卓越した表現力で海外に紹介したラフカディオ・ハーン（二八五〇—一九〇四、帰化名・小泉八雲）をとりあげました。ハーンは国際文化観光都市「松江」のシンボルとして地元でも広く

知られていますが、その作品自体は主に欧米の読者を対象に英語で記述されており、わが国では後年、翻訳を通して読者層が形成された経緯もあり、作品や人物像が知名度ほどには理解されているとは言い難い面もあります。ハーンは一八六九年一九才のとき英国から移民としてアメリカに渡り、苦勞を重ねながら公共図書館通いをして独学で筆力を磨き、二四才の時シンシナティで新聞記者となりました。その後ニューヨークや仏領西インド諸島を遍歴し、新聞記者から雑誌・小説分野への進出など新たな境地を開拓しつつ、三九才で来日するまでの二〇年間を激動期のアメリカで過ごします。

本企画では、多感な青春時代を過ごし思想形成に大きな影響を与えた、西進運動や機械文明が進行する十九世紀末アメリカの社会・文化事象などを背景に、マイノリティや民俗固有の文化に関心を示し、初期ジャーナリズムの萌芽が見られるハーンの新聞・雑誌記事などを素材に、その後の日本での著作活動の原点を探ります。

（かもと すみお）

○企画展示

期 間：平成20年10月25日（土）～11月2日（日）

9時～17時

会 場：松江市立中央図書館（八雲資料室ほか）
内 容：三図書館のラフカディオ・ハーン関係資料、米国時代の新聞記事、書簡、写真、デジタル展示等

○シンポジウム

日 時：平成20年10月25日（土）
午後1時30分～17時



パンフレット (A4, 16p.)

会 場：松江総合文化センター（プラバホール）
大会議室

テーマ：「アメリカのラフカディオ」

・司会・進行 島根大学法文学部教授 長岡真吾
・基調講演
「ラフカディオ・ハーンのアメリカ時代―クレオール俚語集『ゴンボ・ゼーブ』のこと―」

熊本大学教育学部教授 西川盛雄
小講演&パネルディスカッション
「弱者へのまなざし―シンシナティのラフカディオ・ハーン―」

北九州市立大学外国語学部准教授

ロジャーS. ウィリアムソン

「世紀末の激変のはざま―『オズの魔法使い』とラフカディオ・ハーン―」

一橋大学大学院言語社会科学研究科 中川智規

小講演・演奏
「ハーンのいた風景」、「ハーンが聴いたニューヨークの音」

島根県立大学短期大学部准教授 小泉 凡

■デジタル・アーカイブシステムを披露（2008.9.30）

学内外の貴重資料や地域史料をデジタル画像として収集、蓄積し、教育、研究活動に提供する「デジタル・アーカイブシステム」の、学内向け披露式を開催しました。式では、各分野の研究者から、今後幅広い利用が期待できるとの報告がありました。

●医学分館

■図書の刊行（2008.3）

医学分館が所蔵する大森文庫の古医学書をもとに、当時の出雲の医療事情を綴った『華岡流医術の世界—華岡青洲とその門人たちの軌跡—』を刊行しました。

■第4回島根県病院図書室セミナー開催（2008.3.6）

島根県内の医療関係機関所属者および図書室担当者を対象に、職員のスキルアップと相互交流を目的として、医学分館を会場に毎年開催しています。今年度は18名が参加しました。

■卒業生から図書の寄附（2008.3.24）

平成19年度医学科・看護学科卒業生から、卒業記念として図書を寄附していただきました。学位授与式の後に行われた祝賀会で、卒業生代表から目録が贈呈されました。

■看護部新入職員オリエンテーション（2008.4.3）

附属病院の看護部新入職員研修会において、図書館の利用についてのオリエンテーションを開催しました。41名の参加があり、図書館の利用法やOPACでの蔵書検索の方法、各種データベースや電子ジャーナルの概要等について説明しました。

■出雲市立図書館との共催で企画展示会・講演会開催（2008.8.23-8.24）

出雲中央図書館を会場に、「出雲にもたらされた華岡流医術の世界—島根大学附属図書館医学分館『大森文庫』に学ぶ—」を開催しました。講演会は約70名の参加、展示会には123名の入場がありました。会場が公共図書館だったこともあり、和やかな雰囲気の中で貴重な史料を身近に感じられる機会となりました。

■第17回島根県医療関係機関等図書館（室）懇談会総会開催（2008.9.17）

14機関から16名が参加し、島根県立こころの医療センターにおいて開催されました。講演、発表や情報交換など、充実した内容となりました。

☆「淞雲」への記事の投稿について

「淞雲」は、学生や教職員の皆様からの記事の投稿を受付けています。最近読んだ本の書評や図書館について思っていること、島大図書館の資料について研究した成果など、図書館に関する内容の記事ならなんでもOKです。ブック★コンパスで展示されている図書の書評も歓迎します。詳しくは、原稿執筆の手引きをご覧ください。（<http://www.lib.shimane-u.ac.jp/O/shoun/>）

島根大学附属図書館報

淞雲 第9号

平成20年10月発行

発行 島根大学附属図書館

本館 〒690-8504 松江市西川津町1060

TEL (0852) 32-6083 FAX 32-6089

医学分館 〒693-8501 出雲市塩冶町89-1

TEL (0853) 20-2092 FAX 20-2095